

記録  
フィルム  
カラー／32分  
日・英語（短縮）版

■企画

大成建設株式会社

■監修

村松貞次郎（東京大  
学名誉教授 明治村  
館長）

清水慶一（国立科学  
博物館理工学第四室  
室長）

文部省選定 科学技術庁選定 土木学会選定 1996年教育映像祭優秀作品賞 第37回科学技術映像祭科学技術庁長官賞 第9回日本産業文化映像祭銀賞 第49回 SP 広告電通賞映像部門賞 第34回日本産業映画・ビデオコンクール奨励賞

関東大震災後の昭和初期の東京は、現代の都市生活の原型が出揃った時代だった。今日の私たちの暮らしのルーツを求めて現存する1920年代の建造物を中心に、当時の風俗もところどころに再現しながら、当時の記録フィルムや劇映画の一場面もまじえ、「モダン昭和の東京」を描いていく。昭和の優れた建造物の数々を映像記録として後世に残すため横長のスーパー16ミリカメラで撮影された。しかし、撮影された建造物の多くはその後解体され、今はフィルムの中にしか存在しない。

■主要紹介建造物

永代橋／清洲橋／聖橋／勝鬨橋／万世橋／昌平橋／日本橋／兜町  
界限／清洲通りと三つ目通り交差点／道玄坂看板建築／川越蔵通  
り／看板建築（台東区、神保町、日本橋堀留町）／九段小学校／  
東郷公園／明治神宮外苑／隅田公園／同潤会江戸川アパートメン  
ト／同潤会代官山アパートメント／東京駅／三越日本橋店／高島  
屋東京店／阪急百貨店／旧阪急梅田駅コンコース／明治生命館  
／日本工業倶楽部／丸の内ビルディング／丸の内八重洲ビルディング  
／三信ビルディング／ボルドー／東京女子大学／上野広小路駅／  
忍旅館／ダン洋品店／日増屋／湯宮釣具店／六郷水門／野方給  
水塔／駒沢給水塔／河津邸／日笠邸／兼松講堂／旧朝香宮邸／自  
由学園明日館





昭和の初め、江戸川乱歩の小説『少年探偵団』の主人公・小林少年は東京の街中を探偵していた。その架空の少年の現代の姿・小林老人（鈴木清順）を設定し、少年時代を過ごした昭和の初めの東京に造られた建造物を探しに出かける。

関東大震災で壊滅状態となった東京だが、ひとたび復興が始まると、江戸時代から続く街並とは打って変わったモダンな都市へと変貌し、近代都市へと歩み始めた。行政は街中で区画整理を行い、庶民も後に看板建築と呼ばれる洋風の商店を建て始めた。防災都市を目指して、街の至る所に小公園が造られ、その隣には不燃の鉄筋コンクリート造りの小学校が誕生した。また、ヨーロッパ風の並木道を取り入れた公園や、親水（しんすい）公園など、水と緑を大切にしたいゆとりのある都市づくりが行われた。

当時はサラリーマンが都市の主役になり始めた時代で、現代の都市生活の原型が出揃った。集合住宅（同潤会アパート）に暮らす若いサラリーマンは、丸の内のオフィスビルで働く。また女性の社会進出も始まっていた。ドライブやゴルフなど、今に通じる遊びも流行し、洋装のモダンガールが街を引き立て、夜のカフェでは女給が客を接待する。女性の自立も叫ばれ、アメリカンスタイルのモダンな女学校で学ぶ女性たちもいた。休日にはサラリーマン家族は地下鉄に乗って、デパートでウィンドウショッピング。デパートは誰でも土足で入れる気軽な場所になった。都心と郊外を結ぶ私鉄が一挙に敷設され、人々は郊外住宅に住み始める。そこにも、和風の家に一間だけ洋間のある住宅（文化住宅と呼ばれた）が流行、庶民がモダンな暮らしに憧れを強めていった時代だった。

#### スタッフ

- 製作  
村山英世
- 脚本  
北里宇一郎
- 演出  
原村政樹
- 撮影  
西川浩史
- 照明  
本橋俊男
- 選曲  
山崎 宏
- ヘアメイク  
宇佐美さく恵
- タイトル  
オレンジスタッフ
- メインタイトル  
野路 健
- 衣裳  
大久保信子
- 編集  
近藤光雄
- ネガ編集  
高橋辰雄
- 録音  
甲藤 勇
- 効果  
船橋利一
- 録音スタジオ  
東京テレビセンター
- 現像  
ソニー PCL
- 語り  
鈴木清順（映画監督）
- 出演  
案内人・小林老人役：  
鈴木清順  
双葉十三郎（映画評論家） 他